

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200023		
法人名	社会福祉法人 柘野福祉会		
事業所名	グループホーム千本笹屋町		
所在地	京都市上京区笹屋町通千本東入笹屋町3丁目622番地		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690200023&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690200023&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年10月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平均要介護度が1.67、ADLも比較的高く日常生活においても自立されているご利用者様がほとんどである。このため、家事やご利用者様個々の得意なこと・培ってこられた役割を、継続して実施できるよう支援している。法人内の販売事業部に当事業所の作品販売コーナーを設け作品の販売をしたり、ハーモニカの得意なご利用者様は他事業所に出向いてハーモニカ演奏会をすることもあり、意欲的に取り組めるよう働きかけている。また近隣に商店街やスーパー、喫茶店があり、歩いて気軽に出かけられる環境にあり、気分転換することができる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のこれまでの生活を大切に、自立支援を重視してケアに取り組んでいるホームです。玄関からリビング、廊下、居室に至るまで様々な家具に利用者の手作りの品が飾られ、温かで家庭的な雰囲気になっています。可愛い手芸品は、法人の施設に出展したり、地域の子供達へプレゼントして利用者の意欲に繋げています。また食事準備はほぼ全員の方が手伝われ、他にも家事の役割があり、どの利用者も積極的に取り組まれ生き活きた表情で生活されています。開設して3年ですが、地域との関わりも順調に進み、地域行事への参加や学校との交流も広がっています。職員は利用者にとって何が必要なのかを常に考え、尊厳を持って接し、話し合いを重ねて気持ちをひとつにした看取りも経験しています。今後も職員が一丸となって利用者の自然な暮らしを支えていきたいと考えています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、開設当初からの事業所の理念である「認知症があっても慣れ親しんだ地域の中で誇りを持って暮らしていただけるように」を職員間で共有し、日常生活支援を行うと共に、ご利用者様の生活の質の向上を目指している。	地域の中での暮らしを意識したホームの理念は、開設時に職員全員で考えて作り、見えやすい場所に掲げています。会議等話し合いの機会の度に、内容を振り返って確認し合いながら方策をまとめ、常に理念を念頭に置いたケアが実践できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の地藏盆や区民体育祭他地域の行事に参加し交流を図っている。また徒歩で行ける喫茶店や、スーパー等への買い物も頻繁に出かけている。クリスマス会には、児童館の児童がプレゼントや出し物を披露してくれる。	散歩や買い物で顔見知りの近所の方々と挨拶を交わし、地域行事へも積極的に参加したり見学に出かけています。中学校や児童館との交流もあり、児童館の子供たちとは手作りプレゼントの交換をするなど利用者も喜ばれています。今後は幼稚園との交流も視野に入れたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の、認知症サポーター養成講座の講師・ファシリテーターとして参加している。地域の方々とコミュニケーションをとりながら、認知症に対する理解や支援の方法を伝えるとともに疑問に答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で地域の情報をいただいている。事業所からの情報も伝え、意見をいただいている。	会議は利用者、家族、町内会々長、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員等が集まり、2ヶ月に一度開催されています。ホームから状況報告を行い、参加者からは様々な意見や地域の情報を得ています。消防訓練について討議したり、家族会の要望が挙がり実施に繋がるなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営等に関する質問があれば、市町村担当者に連絡し、適切なアドバイスをもらっている。	市役所の担当者とは日頃より電話で連絡を取り合い、報告や相談を行っています。区の事業者連絡会が2ヶ月に一度開かれ、介護保険係の担当者が出席し、情報が共有され協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施したり、日常で起こりやすい身体拘束の具体例を挙げながら、職員間で話し合いをしながら取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを参照し、その都度見直ししながら事業所内で勉強会を行っています。言葉の制止も含めた拘束について個々で理解と自覚を促し、ケアの中で気付いた時は注意し合っています。ホーム入り口やエレベーターは開錠しており、自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止学習テキストを基に、勉強会を実施し、虐待についての考え方や理解を深めている。		

グループホーム千本笹屋町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修や法人内の研修に参加し、制度について理解できるよう取り組んでいる。また研修等で得た情報を他職員へ報告し伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂の際には、ご家族様に事前に説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情受付窓口の掲示を行っている。ご利用者様には、日常会話を通じて意見や要望を聞いたり、ご家族様には面会時に要望や運営についての意見を聞いている。	イベントを兼ねて家族会を開催し、意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心がけています。またサービス担当者会議の際は、ホームの運営についての希望も聞くようにしています。出された意見はケース記録と引き継ぎノートに記載し、改善策を職員で検討し、結果を速やかに家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や引き継ぎノートで、職員の意見や気付きを聞く機会を設けている。月1回管理職出席の全体会議で意見や提案ができる機会を設けている。	職員間の回覧ノートに意見を自由に書いてもらい、会議で取り挙げて検討しています。管理者は介護現場に入り職員との関わりを多く持ち、提案を出し易い関係作りに努めています。法人の担当者も定期的に訪問し、意見を聞いたり話す機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課(Do-Capシート)により自己目標等を管理・評価し、給与や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育・研修担当と連携し、法人内の研修に参加したり、アドバイスをもらっている。外部研修にもできる限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都市地域密着型サービス事業所協議会に入会し、意見交換を通じて交流している。また交換研修も実施予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に伴い環境が変わることでのリロケーションダメージを最小限にするため、ご本人様との日常会話において要望等を聞き出し、不安等は解決できるよう努めている。ご本人様なじみの喫茶店にもでかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始するに当たっての説明をご家族様の意向を確認しながら、ご納得いただけるまで行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が自分らしく生活できる環境をつくと共に、主治医や支援センター職員とも相談し、ご家族様の意見も尊重し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場に立つことなく、人生の先輩として色々な経験からの知恵を教えられ、生活を支援する上では、ご利用者様主体で何事も共に実施していただけるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日常のご様子を報告したり、状況に応じてご家族様に電話での報告をしている。月1回写真と共にご様子をお便りにしている。ご利用者様もお手紙を書いておられ、一緒に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来られた際は、日常のご様子を報告している。ご利用者様の馴染みの場所に一緒に出かけられることもあり、馴染みの関係や場所との繋がりが保てるようにしている。またお届け物があれば礼状を書かれたり、ご利用者様の作品を友人にプレゼントされることもある。	散歩で出会った友人と話をしたり、知人の経営するお店へ会いに出かけたりしています。また行きつけの美容院、普通だったスーパー、レストラン、住んでいた家など利用者の話から思い出の場所を想定して個別での外出支援を行い、昔を懐かしんでもらう機会を作っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が構築できているご利用者様同士は、居室を行き来されお互いの居室で過ごされている。ご利用者様の中に合う合わないはあるが、職員が間に入ることで関係を調整している。		

グループホーム千本笹屋町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、暮らしの希望や意向を把握できるよう職員会議やミーティングで話し合いや見直しを行っている。日々の関わりを記録に残すことでご利用者様の思いを知ることにつなげている。困難な場合はご家族様に相談しご利用者様の立場で考えられるよう検討している。	入居時のアセスメントで得た情報をもとに暮らしの希望を把握し、新しい情報はその都度アセスメント用紙に加筆しています。利用者の普段の会話から初めて聞いた事柄を「ご利用者連絡ノート」に記録し、他の職員がそれを基に会話を広げて本意を汲み取ったり、意思表示が難しい方は、表情や行動から意向を把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご家族様に協力していただき、把握できるよう努めている。またご利用者様との日常会話や日々の関わりを記録に残し、把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の職員会議で、ご利用者様のご様子や状況が把握できるように職員間で意見や情報の交換を行っている。記録や引き継ぎノートを活用することで、引き継ぎもれがないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、職員会議でケアプランの評価や方向性を話し合っている。ケアの大幅な変更があれば、ご利用者様・ご家族様に相談しケアプランの変更を行い、ご利用者様の必要としている支援ができるよう努めている。	年1回のサービス担当者会議でアセスメントや24時間まとめシートを参照し変化を話し合い、介護計画を作成しています。モニタリングは1～3カ月に1度ケース会議にて職員間で確認し、定期以外の随時の見直しも行われています。また日々のケース記録にケアプランが記載され、実施チェック欄を設け介護職員が把握しながら記入できるよう工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員との関わりの中で気付いたことやケアプランに関しての関わりや変化等、ケース記録に記録するよう指導している。ご利用者様の対応や関わりに追われて、記録が簡素になっていることも多々ある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に様々な事業所があるため、行事に参加したり、ご利用者様の作品を販売したり、またご利用者様が他事業所に出向きハーモニカ演奏会をすることもある。		

グループホーム千本笹屋町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に商店街やスーパーがあるため、買い物に出かけている。近隣の喫茶店に出かける時は、気分転換にもなり喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診される場合は、ご家族様が付き添って下さる。	ほとんどの利用者が協力医を希望されていますが、以前からのかかりつけ医を継続されている方もおられます。共に月2回の往診があり、24時間可能な連絡体制となっています。他科への通院の際は看護師や職員が同行して情報を得るなど関係を密にしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日看護師が勤務し、健康チェックをしている。24時間オンコール体制で、ご利用者様の状況によって、対応や主治医への報告、的確な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要になった場合の協力病院と連携を取っている。また入院時には主治医・看護師と連携し、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の説明を行い、同意を得ている。状態悪化した場合は、ご家族様の思いや希望を尊重し、後悔がないように主治医・看護師を含め、ご家族様とカンファレンスを行い、支援体制を整えるよう努力している。	入居時の説明に重ねて、必要時に再度話し合いの機会を持ち、指針の同意について確認を行うようにしています。過去に家族の協力のもと、医師、看護師、職員が方針を共有しながら看取りを行った経験があり、職員から挙げた様々な意見を参考に今後も看取りの体制を整えていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々のスキルに差があるため、定期的な研修を実施し、実践に繋げる必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防による防災訓練を実施している。地域との協力体制構築については、今後の課題である。	年に2回消防署の指導の下、昼夜を想定した訓練を実施しています。地域へは運営推進会議で議題に取りあげて話し合ったり、見学の声かけや協力の依頼を行っています。実際の参加に繋がるよう次回の運営推進会議で再度具体的に話し合い、依頼したいと前向きに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報の取り扱いについての研修を実施し、日頃から注意している。	法人のプライバシー保護のマニュアルに基づいて、毎年ホーム内で勉強会を行っています。日頃のケアの中で、気になる点があれば職員同士で注意し合ったり、問題提起し会議で話し合っています。管理者は、言葉かけによる弊害について職員全員が理解しケアできる指導を常に心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、自己決定できるように働きかけている。職員自身も理解できている、新しい職員には都度指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを守りながら、ご利用者様に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院に行かれる。好みの衣類を着て過ごされている。ご利用者様・ご家族様の要望等により応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに長時間立位で調理することが困難なご利用者様には、座位で食材を切る等していただいている。食後は、ご利用者様で分担して交代で職員と共に後方付けをされている。	食材は業者の注文が主ですが、利用者の希望や行事等に変更し、週1~2回一緒に買い物に行っています。準備や後片付けは日ごとに役割を決めてほぼ全員が行っています。誕生会などの行事では手作りケーキや鍋を囲んで団欒したり、夕食に外食を取り入れるなど、楽しい食事時間になるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり摂取量のチェックを行っている。ご利用者様個々に合わせた提供量を職員が把握している。ご利用者様の状態により、水分摂取量・食事摂取量を詳しく記録できる表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士と連携をとりながら、口腔ケアを実施している。ご利用者様の口腔内・義歯、口腔ケアの方法等、疑問や質問に衛生士が都度相談に応じてくれており、アドバイスをいただいで実践に繋げている。		

グループホーム千本笹屋町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、パットの使用は最小限にするよう努めている。トイレに行かれていないようであれば、適宜声をかけている。	ケース記録の排泄表を参照しながら、個々の排泄パターンを把握し、タイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。昼間は極力布パンツで過ごしてもらっています。細やかな対応で失敗が少なくなり、紙パンツから布パンツへ移行した方もおられ、自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	居室で過ごされる方には配茶をしたり、水分を好まれないご利用者様にはゼリー等の嗜好品を摂取していただいている。毎日10分間のテレビ体操を実施し、運動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めているが、外出や行事、ご本人様の希望によって変更できるようにしている。その日のご利用者様の状態に応じて支援している。	入浴曜日以外も希望があれば対応し、好きな時間に、一人ずつお湯を変えてゆったり入ってもらっています。冬場を除いて希望者は、階下のデイサービスの大きなお風呂に入ってもらったり、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を取り入れ、声かけも工夫しながら心地よく入浴できるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のご様子を観察しながら臥床をすすめたり、昼夜逆転しないよう、時間を決めて離床していただく等対応している。ご利用者様の興味のあることや得意なこと、好きなことをして活動的に過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の内服薬を一覧にして、職員が把握できるようにしている。薬の変更や追加があれば、引き継ぎノートを利用し伝達し、様子観察し記録しながら情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常会話・日々の観察からご利用者様の好きなことや得意なことを知り、記録に残している。また家事や手芸等好きなことを思い出したり、できることを引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出できる機会を作っている。日々の食材や足りないもの等の購入をご利用者様に声をかけ一緒に出かけている。必要時にはご家族様に報告し、ご利用者様の希望がかなえられるよう視点している。	近隣への散歩や食材の買い物、花の水やりなど、日常的に戸外へ出る機会を多く設けています。デイサービスの送迎車を借りて、毎月遠出したり、花見や紅葉狩りには家族も誘って出かけています。また法人の施設へ喫茶や出展した手作り作品を見に行ったり、少人数で歌や楽器の披露に出掛けることもあります。	

グループホーム千本笹屋町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、ご家族様に協力していただきながら、自己管理されている。職員と一緒に買い物に出かける時にご利用者様に支払いをしてもらうようにしている。ご利用者様によっては、昔からの習慣で出納帳に記入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたいとおっしゃる方はいない。写真と共にご本人様にお手紙を書いていたで送っている。また日常の中で、その時のご利用者様の思いを書いていただき、面会時等に読んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの物品や馴染みのものを置くことで、ご利用者様が馴染める空間づくりを心掛けている。食事前後はキッチンからの生活音やご利用者様と職員のやり取りが聞こえ、生活感が増している。居室前には、ご利用者様が作ったその時期の飾りを付け、季節を感じるができるよう支援している。	玄関、リビングの家具カバーや小物など様々な利用者の手作り用品で飾られ、温かで可愛い雰囲気になっています。庭で採れた花をテーブルに飾り、季節感を感じてもらっています。テーブル配置にも工夫し、天井に風よけの布をかけたり、必要以上にテレビはつけずBGMを流すなどゆったりと落ち着いた共用空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが、リビングのみとなっているため、廊下つきあたりにソファを置き活用している。リビングでは食事以外は席を固定せず、ご利用者様がその時座りたい場所に座っていただけるよう、声をかけながら見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使いなれた家具や物品を持ち込んでいただき、ご利用者様がご自分のものとして安心して使っていただけるようにしている。	各部屋の表札には手作りの季節の飾りや暖簾が掛けられています。居室の家具等は全て持ち込みとなり、入居時に家族に依頼して、本人の好きな物や馴染みの品を揃えてもらいレイアウトも相談して行っています。また居室に洗面台とトイレが設置されプライバシーが確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り生活感を感じることができるようにしている。注意が必要な場合は、職員から都度声をかけ、傍につきながら使用していただいている。		